

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500509		
法人名	特定非営利法人トライアングル・サークル		
事業所名	グループホーム たんぼぼ憩の家		
所在地	長崎県大村市東野岳町1786番地1		
自己評価作成日	平成22年12月30日	評価結果市町村受理日	平成23年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年1月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>野岳湖畔の豊かな自然環境の中で、季節を感じながら、ゆっくりと自分らしく共に暮らせる「家」として、近所の方や保育園児などが遊びにくる暖かい「家」として、さりげなく支援をしていきたい</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>21年、管理者や職員の一部入れ替わりがあり、『今年が“スタート”の年』と言う言葉を合言葉に、新たな“たんぼぼ憩の家”を作りあげてきた。22年度は学びの年であり、23年度はその学びを実践していく年と考え、その実践を記録(写真)に残し、ご家族にも伝えていきたいと考えている。ご家族との会話の機会を増やし、何でも気兼ねなく言って頂けるように努めてきたが、次第に要望等も増えており、ご家族の協力を頂きながら、ご利用者主体の生活ができてきている。理事長の理念を全職員で共有しながら、1年間かけて“ケアのあり方”を見つめてきたが、ご利用者お一人お一人の行動の背景にあるお気持ちや不安などを一心に見つめ、定例会での話し合いも続けてきた。職員は、人生の大先輩であるご利用者に相談に乗って頂いたり、お料理の仕方、餃子作り方を教えて頂くなど、生活の知恵や学びを日々教えて頂いており、同じご利用者のズボンほつれを縫って下さる方、隣の有料老人ホームにあるカラオケで歌を楽しむ方など、思い思いのペースで穏やかに過ごされている。「仕事に来るのが楽しい」と笑顔で語られる職員の姿は印象的であり、今後も、季節を感じるための散歩や買い物等も増やしていく予定にしている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、毎朝の申し送り後、理念を読み上げて意識づけを行い毎日の業務に専念している	理事長は、子ども達から高齢者まで「ゆったりと、自分の家のように、地域の中で、その人らしく安心して暮らせる環境を整えていきたい」と言う思いを込めて、「ゆっくりと・自分らしく・共に暮らす」という理念を作られた。生活歴などを再度伺う中で、一人一人の「自分らしく」を考える場を持ち、個別の対応に取り組むことができた。	今後も、一人一人の「自分らしく」を考える場を持つと共に、地域の協力体制を強化するために、行事や訓練の時のご案内の範囲を広げながら、より多くの方に行事や会議に参加頂きたいと考えている。(2・3・7・13共通)
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	天候が良い時の散歩や買物に出かけた際は近隣の方と挨拶を交わしたり話をしている 防災訓練や花見会などへの声掛けを行なっている	保育園の行事の見学や近隣公園、お店にもご利用者と出かけており、近隣の方々にもお会いすることができ、地域の方が、お花見や餅つき、避難訓練等に参加された。たんぼ保育園の園児たちが七夕の飾りを一緒に作ったり、一緒に食事を楽しむ機会を作る等、ご利用者の楽しみの一つとなっている。	地域の協力体制をもっと強化するために、地域の方々ともっと親密な関係を作りたいと考えている。行事や訓練の時のご案内の範囲を広げながら、より多くの方に行事や会議に参加頂けるようにしていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の偏り、町内会の会合時に施設の状況・取り組みを話していただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、行政・ご家族代表・民生委員理事長・管理者で開催し、ホーム側の状況も理解頂いているもので意義あるものとなっている	2か月に1回、隣の“たんぼの家”の方と合同で、運営推進会議を開催している。会議の議題は、利用者に関連したテーマにしており、話し合いが行われている。消火訓練に参加された民生委員より提案された、“避難する時はご利用者のネームプレートに床に置き”避難が行われた。	地域の協力体制をもっと強化するために、地域の方々ともっと親密な関係を作りたいと考えている。行事や訓練の時のご案内の範囲を広げながら、より多くの方に参加頂けるようにしていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡・相談を行なっている。運営推進会議では担当者の方へ施設での取り組みを積極的に伝えている	市の方へは、主に隣の“たんぼの家”の管理者が窓口になり、連携を取って下っているが、ホームに関する内容は、直接電話で相談することもある。事故報告書に関して、施設内で今後の対応を検討し提出した際に、他施設などの取り組みをアドバイス頂いた。	今後も市の担当者より、運営推進会議に出席された時や会議以外の時にも、他の施設の情報を教えてもらい、ホームの運営にも活用していきたいと考えている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の目配り・気配りを徹底し身体拘束をしない、施錠をしない、自由な暮らしに取り組んでいる 3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催している	日中は鍵をかけることはなく、自由に出入りができるようにしている。転倒などの危険性が高い方への目配りの徹底を行い、必要に応じて個別の対応も行っている。感情の起伏があらわれる方には、背景にあるお気持ちに寄り添い、少しでも改善できる取り組みを続けている。	ご利用者一人一人の“今の思い”をもっと理解できれば、急に立ち上がった時の転倒のリスクが減らせるのではないかと考えられている。今後も、“今の思い”を理解できるように検討を続けていき、身体拘束をしない取り組みを続けていく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などで学ぶ機会をもうけている 理解を深め、防止に努めている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の協議会が主催する研修に一部の者しか参加できていないため勉強会を開き職員の理解を深めていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて、丁寧に説明している。また質問に関しては、いつでも受け付け、理解納得していただくよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をしている 介護相談員の派遣・第三者機関窓口の説明を行なっている	面会時にご家族より意向を伺い、生活歴や好きなもの等を把握している。情報はカルテに記載し、職員間で共有し、日々のケアに反映している。毎年1回の家族会時にアンケートを行ったり、一緒にお食事をしながら情報を頂くようにしている。介護相談員も来訪し、ご利用者の方々と1時間くらい話して頂いている。	今後も引き続き、ご意見や苦情を職員へ伝えて頂けるよう、ご家族との信頼関係の構築に努めていきたいと考えている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を行なっている 毎月の定例会で意見は役職者会議にて検討し反映させている	「スタッフ会議21」と題して職員の意見を取り上げ、処遇改善のための会議を設置した。処遇改善の他、介護職の目標を各施設より出し、話し合いを行っている。「入浴日の変更」や「避難訓練」など、定例会での話し合いも行われており、ご利用者のケアに関する意見を聞くようにしている。	日々の業務の中でも意見交換を行っているが、「スタッフ会議21」の開催を続けていく中で、参加するスタッフの幅を広げ、細かい意見を汲み取っていただけるようにしたいと考えられている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生の1つとして年2回補助をだして職員のストレス解消に役立てている。勤務希望を上手く調整している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶ事を推進し事業所外で開催される研修会には多くのスタッフが参加できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会への参加やスタッフ研修会に参加して質の向上に努めている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前訪問し、本人様の心身の状態を把握すると共に、ご家族とも相談し生活歴等の情報収集をし、思いを受け止めるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、ホーム側の対応など事前に話し合いを行なっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な方には可能な限り柔軟な対応を行なっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	思いを表現することが難しい利用者へも表情や反応など共に過ごす時間の中で不安や喜びを汲み取っていけるような関係を築くよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを引き出せるよう、こちらから日々の状況や職員の思いを伝え一緒に支援していく関係を築いていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人友人に遊びに来ていただくよう働きかけている	日頃の会話の中で、「行きつけの美容室へ行きたい」との要望があり、ご家族にも情報を頂き、自宅周辺を探し見つけることができた。美容室の方との調整により、予約当日に以前より付き合いのあった友人と美容室で会うことができた。知人の方等がホームへ訪ねてこられた場合は、ゆっくりと会話できる場所も提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しい時間が過ごせるよう場面作りをするなど関係が保てるよう支援している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的に行なっていないが相手より連絡等あれば対応していきたい		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情からその思いを推測したり職員間での話し合いで検討している。ご家族からの情報も参考にしている	ご本人の思いを個別記録に残し続けており、ご自分から意思を伝えることが難しい方には、食事の時や夜勤の時など、職員と2人の時間の時にゆっくり意思を伝えて頂く時間も作っている。今までの生活歴や日々の表情や行動、しぐさなどを大切に感じ取りながら、ご本人の願いを汲み取る努力を続けてきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族からの聞き取りなどで把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解し出来ないことより、出来ることに注目し、発見していくことに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう要望を聞き課題となることをスタッフ間で話し合い計画作成している	一人一人の心身状況や思い、生活習慣等も踏まえ、ご家族にも相談しながら作成している。ご本人やご家族の役割も計画に反映し、音楽療法や生活リハビリ等にも取り組んでいる。ご利用者の言葉にできない不安やストレス等を職員は大切にしており、「何故、このような行動をされるのか」を定例会の時に職員で話しあっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの気づきや利用者の状態変化はケア記録に記載し情報を共有している。また、月に1回の定例会でも情報交換している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	早急な対応が必要な方には可能な限り柔軟な対応を行なっている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力により避難訓練や救急救命訓練を実施している。民生委員より地域の情報を得たりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、協力病院の往診があり適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果に関する情報も家族と共有している	利用開始時に希望をお聞きしているが、往診をして頂けるという事もあり、納得の上で協力医療機関へ変更されている。医師の往診時の結果は、特に変化がない場合はお便りで報告しているが、必要に応じてその日に電話で伝えている。基本的に職員が通院介助を行っているが、ご家族に同行して頂く事もある。	受診時や往診時などは、ホームの看護師の方が中心に医師との情報交換をしているが、かかりつけ医からの情報を確実に申し送りができるように、記録の残し方の検討をしていく予定である。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置しており常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行なえるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を医療機関に提供し、家族とも相談しながら速やかな退院支援に結び付けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に対する対応方針を定め、家族・医師・職員を交えて話し合いを行なっている。状態の変化や本人の思いに注意を払い支援につなげている	重度化や終末期の方針を契約時にお伝えし、意向を把握するように努めており、全員の方から「最期はホームで…」と言う意向を伺っている。状態変化等は、AEDの使用の有無も含めて、再度、今後の対応に関する同意を頂くようにしており、主治医や協力医療機関等の関係者、職員、ご家族で対応について繰り返し話し合いを行っている。終末期ケアの為、夜勤体制を一時的に1人増やした。	終末期において、ご家族の意向の変化も大切にしなが、話し合いをしていきたいと考えている。病状や薬、今後の経過等に関しては、主治医から丁寧に説明頂けており、今後も、主治医とご家族との話し合いの場を増やして頂く予定にしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急救命講習を受講し急変や事故発生に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認、消火器の使用法などの訓練を定期的に行なっている	年に2回、3施設合同で、夜間を想定した避難訓練と研修を行っており、前回の訓練では消防署職員と近隣の住民の方も参加された。地域の方や系列施設の方々にも、避難するご利用者の見守りの協力依頼をあらかじめ行っている。ホームでは、災害時に備えて飲料水や非常食の缶詰や乾パン等が常備されている。	地域の協力体制をもっと強化するために、地域の方々ともっと親密な関係を作っていきたいと考えている。行事や訓練の時のご案内の範囲を広げながら、より多くの方に参加頂けるようにしていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様には尊敬の念をもって接し、介助の際には、さりげなく寄り添うように支援を行っている	介助を行う際には、さりげなく手を差し伸べるような気遣いをもって支援を行っている。排泄ケア等の誘導の声かけや介助の時は、声の大きさや言葉遣いに注意しており、ご利用者の自尊心を傷つけないように配慮しながら取り組んでいる。個人情報の管理についても徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、さりげなく複数の選択肢を提案して本人様が選びやすく、意思を伝えられるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の気分に合わせて、出来るだけ個性のある生活ができるよう柔軟な対応を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容のサービスを受けたり、行きつけの美容室へお連れしたりしている。買い物と一緒に洋服を選んだり、その人らしさを大切にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付け、盛り付けなども手伝っていただき職員と利用者様が同じテーブルにを囲んで会話しながら楽しく食事できる雰囲気づくりを行っている	献立は、ピーマンやなす等、ホームの菜園で収穫した季節の野菜を採り入れたものになっている。郷土食である“大村寿司”を提供したり、皿うどんや寿司の出前を取って食べることもある。料理の得意なご利用者に、餃子作りを手伝って頂く等、お力を発揮して頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量のチェックを記録している。状態に応じて栄養補助食品やアクエリアスなどの飲料も使用し食事・水分量の確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、実施している。義歯使用されている方は夕食後に洗浄剤を使用して清潔保持に努めている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表を24hで記録しており、個々の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導することでトイレでの排泄を促している	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。日々のケアを行う中で、オムツやパッド使用について検討が行われている。トイレ介助が必要なご利用者については小声で誘導したり、失敗された場合も、周囲の方に気づかれないように後始末する等、羞恥心に配慮したケアが行われている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認表で把握し、ひじきなどの食品で補ったり、慢性的な方には補助食品を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を決めているが、その日の体調や気分によって希望に添えるようにしている	週3回の入浴を基本としているが、ご利用者の希望や体調に応じ、入浴日以外の対応も可能となっている。ご利用者には一人ずつ入浴して頂いており、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を行うなど、ご利用者に入浴を楽しんで頂ける様取り組んでいる。バスアールで覆うなど、羞恥心への配慮も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間は、その方の希望に沿っている。食後の休息も、ソファーや自室など、自由に過ごされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを整理しており、スタッフが内容を把握できるようにしている。臨時で処方された薬についても連絡帳やボードに記載しすべてのスタッフが確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った力を発揮していただけるよう、お願いできそうな事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の思いに沿って実現できるよう、ご家族の協力を得て取り組んでいるが上手く支援できているとはいえない	ご利用者は、買い物に出かけたり、気候が良い時期は市内の公園へ花見に出かけるなど外出を楽しまれている。外出を希望されるご利用者もおられるが、寒い時期に入り、インフルエンザの流行等もあり、感染防止の目的もあり外出を控えてきた。	ご利用者に満足して頂けるような外出支援ができるように、感染防止という視点だけでなく、自由な生活が継続できるように、外出の仕方や必要性について、職員間で検討されてみてはいかがであろうか。



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を、ホームで管理している。買い物など外出した際は、ご自分で判断し支払っていただくよう支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば子機を使用し自由に連絡して頂いている。支援が必要な方は、通話できる状態にして支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや温度・湿度に気を配り、季節感を感じて頂けるように工夫している。	玄関や廊下・リビングには季節の花がさりげなく飾られており、ホームのいたる所で季節感が感じられるよう工夫されている。天窓にはステッドガラス調のフィルムを貼ることで日差しの調整が行われており、リビングのソファの配置など、ご利用者に居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。随時リビングや居室の窓を開けて換気を行い、トイレには炭を置いて消臭する等の配慮も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静かに過ごせるスペースを作っている。利用者個々の、その時の気分に応じて過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品などを部屋において頂き心地よさに配慮している	ベットやカーテン、照明や収納は各居室に備え付けてあるが、ご利用者の体調に合わせて、電動ベット等使用して頂いている。長年ご自宅で使われていたタンスやテレビ、冷蔵庫、ご家族の写真やぬいぐるみなど、ご利用者の馴染みの物を持ってきて頂くようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせて、ベットの位置や向き、浴室・トイレの手摺など適した物を使用して頂き、安全確保と自立への配慮を行っている		

事業所名: グループホームたんぽぽ憩の家

作成日: 平成 23 年 3 月 28 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の方に、行事の声掛けをしても、なかなか参加を得られず地域の方との交流が難しい	地域との協力体制をもっと強化したい	地域に配布する範囲を広げ多くの参加を呼びかける 広い意味での地域(市内の保育園など) 子供達と交流の機会を今以上に増やしていく	12 ヶ月
2	11	運営に対しての職員からの意見が得られずに反映されていない	職員から意見を出してもらおうよう働きかける	アンケート、スタッフの交流会、意見を吸い上げる為の会議等の開催を定期的に行なっていく	12 ヶ月
3	48 49	ご利用者に満足して頂けるような楽しみのある自由な生活や外出支援ができるのではないかな	日常での楽しみや外出等、ご利用者の希望をもっと支援したい	月々の行事や外出などの担当を決め、その職員を中心に計画していく ご利用者の希望に沿い柔軟な対応で職員も一緒に楽しむ	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月